殿ダム水源地域ビジョン

万葉の歴史と自然の恵みに誘われる
因幡のふるさと文化圏づくり

殿ダム水源地域ビジョン策定委員会

平成23年5月

【表紙イラストの解説】

“伊福吉部徳足比売（いふきべのとこたりひめ）”

因幡を代表する豪族・伊福部氏の女性で、藤原京の文武（もんむ）天皇の采女（うねめ）（女官）として仕えていました。

目　　次

はじめに

1. 殿ダム水源地域の概要 1
   1.1 水源地域の概要 1
   1.2 自然環境の概要 2
   1.3 社会環境の概要 2
   1.4 殿ダムの概要 3

2. ビジョンの背景および目的 4

3. ビジョンの目標、基本方針 7
   3.1 ビジョンの目標 7
   3.2 基本方針 8

4. ビジョンの行動計画 9
   4.1 行動計画の柱 9
   4.2 目標実現のための施策 10

5. ビジョンの推進方策 16
   5.1 推進体制 16
   5.2 ビジョン推進に向けた今後の展開 18

6. 施策メニューの具体的な内容 19
   6.1 先行して実施する施策の内容 19
   6.2 中長期的に取り組む施策メニューの内容 25

参考資料
   1. 殿ダム水源地域ビジョン策定委員会 32
   2. ビジョンの検討経緯 34
   3. アクションプランの実施結果 35

はじめに

殿ダムは、鳥取市国府町殿地先において建設中の多目的ダムであり、一級河川千代川・袋川流域の洪水や渇水被害の軽減ならびに水資源開発を目的に、平成 3 年度に着工し、平成 23 年度の完成に向け事業が進められています。

一方で、ダム事業により創出される土地（湖畔等）やダム湖を活用して地域活性化を図る「殿ダム湖周辺地域ふるさと再生２１プラン」（平成 18 年 3 月）が鳥取市により策定されており、この計画では、近年の社会動向の変化に対応しながら、ダム湖によって創造される水と緑の空間の利活用及び中山間地域の景観保全等を図るものとしています。

また、殿ダム水源地域は、日本の滝百選の「雨滝」や河合谷高原等などを有し、山陰海岸ジオパーク扇ノ山エリアに含まれるなど、豊かな自然環境を有するとともに、鳥取市国府町は、その昔因幡の国府が置かれ、政治・経済・文化の中心として栄えてきた地域であり、万葉集の大伴家持に因んだ歌碑等、往時の文化を伝える遺跡が残されているなど、自然と歴史・文化に恵まれた地域であることも特徴的です。

このため、「殿ダム水源地域ビジョン」では、殿ダム上下流域の住民を含む、多くの市民が憩いの場として活用することはもとより、水源地域の自然環境や歴史・文化を保全・活用しながら、地域の実情に応じた今後の活性化に役立つダム利活用としていくこと、更には、殿ダムが水源地域のみならず、鳥取市全体においても、新しい地域づくりの核となる利活用を考えていくことが重要となります。

これらの背景のもと、ビジョン策定にあたっては、策定委員会で審議を行うとともに、具体的な利活用の施策検討においては、水源地域をはじめ鳥取市内の広域な関係分野の方々によるワークショップを開催し検討を行ってきました。

この「殿ダム水源地域ビジョン」によって、殿ダム周辺地域の活性化に寄与するとともに、鳥取市民をはじめ多くの人々の憩いとやすらぎの場として利用され続けることを期待しています。

殿ダム水源地域ビジョン策定委員会

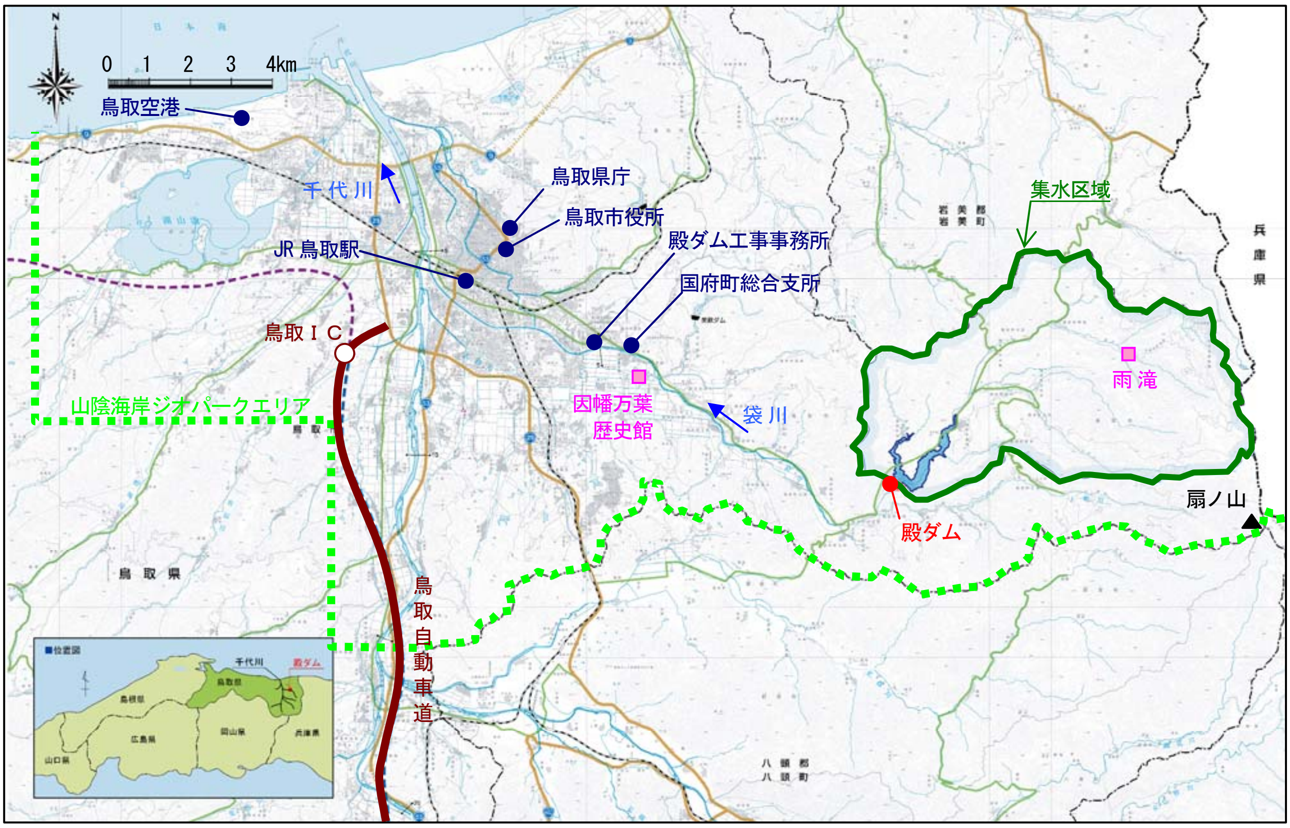
1.　殿ダム水源地域の概要

1.1　水源地域の概要

殿ダム水源地域の鳥取市国府町は、鳥取県が 2008 年 10 月に施行した「鳥取県みんなで取り組む中山間地域振興条例・規則」で設定されている中山間地域に該当します。

鳥取市の中山間地域は、市域全体の約 9 割を占めており、豊かな自然と調和した環境にありますが、人口は鳥取市（197,355 人 H22 年国勢調査）の市街地部に集中しています。また、高度成長期以降、豊かさを求めて地方から都会への人口流出や自家用車中心のライフスタイルへの変化に伴い、過疎化が進行し、高齢化が進んだ小規模な集落が拡大しています。

一方、近年、地球温暖化や経済情勢の悪化などにより、環境意識の高まりから、都会の生活を離れて地方で農林漁業を志す人や自然が豊富で人情味豊かな田舎での暮らしやスローライフを求める人が増えており、平成 24 年度の鳥取自動車道の全線開通等により、今後、都会からの交流人口の増加が期待されます。



■殿ダム位置図

1.2　自然環境の概要

殿ダム水源地域は、標高 1,310mの扇ノ山から続く山地を水源とし、殿ダムの左岸側(東側)は、扇ノ山から火山性の溶岩台地や渓谷などを形成しており、右岸側（西側）は小さな起伏の山地となっており、その大半が山林によって占められています。また、山陰海岸ジオパーク扇ノ山エリアにあり日本の滝百選にも選ばれている「雨滝」、鳥取県天然記念物の「菅野ミズゴケ湿原」など、豊かな自然環境となっています。

（日本の滝百選「雨滝」）

（自然歩道コース案内板）

1.3　社会環境の概要

殿ダム水源地域に位置する鳥取市国府町は、その昔因幡国の国府が置かれたところで、国守に万葉集の編者でも知られる大伴家持、小倉百人一首で有名な在原業平、大江広元など著名人が任命されており、鳥取市国府町の宮下周辺には大伴家持の歌碑とともに、因幡万葉歴史館が建設され、“万葉集朗唱の会” 等の各種イベントが開催されています。

また、集落毎に生産グループ等が組織され、地元農産物の加工品の生産・販売や木工製品の加工販売等、様々な特産品活動が行われており、特産品協議会の設立によって地域の実情に応じた新たな取り組みが期待されています。

（因幡万葉歴史館）

（大伴家持の歌碑）

1.4　殿ダムの概要

殿ダムは、一級水系千代川・袋川流域の洪水や渇水被害の軽減ならびに水資源開発を目的に鳥取市国府町殿地先に建設されている多目的ダムであり、ダム高 75m、堤頂長 294 m のロックフィルダムです。

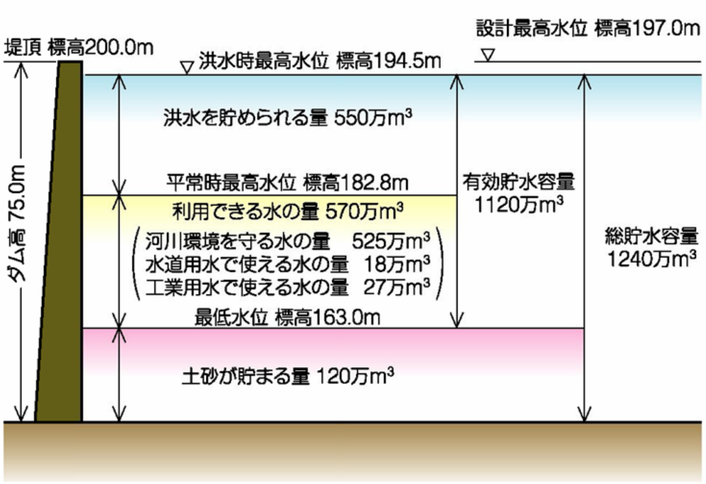
千代川の歴史は水害と渇水との闘いであり、最近では昭和 51 年、54 年の大水害や昭和 43 年、平成 6 年の渇水など、洪水と水不足がたびたび起きています。また、鳥取市街地周辺では、新しく住宅地の開発や工場の建設など、地域の発展に必要な水の確保が望まれていました。

このため、殿ダムは、水害や水不足から生活を守るため、また地域の発展に貢献するダムとして、平成 3 年度に建設工事に着手し、平成 23 年度の完成に向けて工事が進められています。

【殿ダムの諸元】

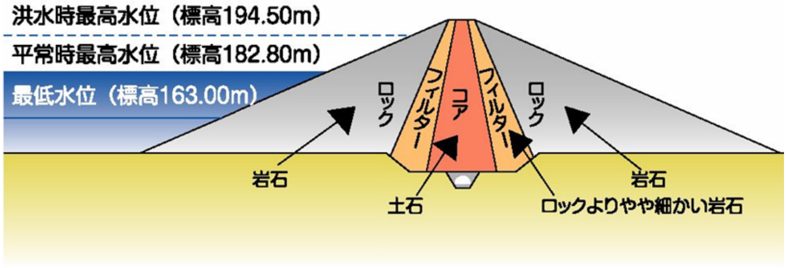
ダ　ム	
位　　置	鳥取市国府町殿地先
形　　式	ロックフィルダム
ダムの高さ	75.0m
ダムの幅	294m
ダムの体積	約 209 万 m^3
堤長標高	200.00m
貯水池	
集水面積※	38.1km^2
ダム湖の広さ	0.64km^2
ダム湖の水の量	1240 万 m^3

※集水面積：ダム湖に水(降雨)が集まってくる範囲



【ダム湖の利用計画】

■殿ダムの諸元と利用計画



【標準断面図】

【殿ダム下流側からの眺望 H23.4)】

■殿ダムの堤体構造

2. ビジョンの背景および目的

(1) 殿ダム水源地域の現状とビジョン策定の背景

殿ダム水源地域ビジョンを作成するにあたり、ビジョンの背景を以下にまとめています。

殿ダム水源地域の背景

- 中山間地域では、人口減少、少子高齢化、過疎化が進行による地域活力の低下が深刻な課題となっています。
- 鳥取の歴史・文化や豊かな自然に恵まれた中山間地域は、生きる力や人間力を育む機会を提供する体験の場等、新たな価値観を育む地域として期待されています。
- 殿ダムは、地域の安全や発展、中山間地域が抱える諸課題の解決などに大きな期待が寄せられています。
- 水源地域の活性化については、平成 18 年に「殿ダム湖周辺地域ふるさと再生 21 プラン」が策定され、殿ダム周辺整備の方向性が打ち出されています。

殿ダム水源地域ビジョンの目的

殿ダム水源地域ビジョンは、こうした水源地域の自然環境や歴史・文化を保全・活用しながら、地域の特性に応じて、水源地域である鳥取市国府町の大茅・成器地区の自立的・持続的な活性化はもとより、広く鳥取市全域の幅広いニーズに応える殿ダム湖周辺の利活用についてとりまとめたものです。

【2010 殿ダムｳｫｰｷﾝｸﾞ大会】

【地元特産品づくり風景】

(2) 「殿ダム湖周辺地域ふるさと再生 21 プラン」の概要

「殿ダム湖周辺地域ふるさと再生 21 プラン」は、人口流出と少子高齢化、地域活力の停滞など水源地域の厳しい社会経済の現状と、一方で人口約 20 万人の鳥取市の中に出来る里ダムとしての立地条件は、鳥取砂丘、湖山池、久松山等と並び、圏域の中の憩いとやすらぎの空間の一つとして期待できる等、地域の実情を踏まえ、次の 2 つの点を基本理念としています。

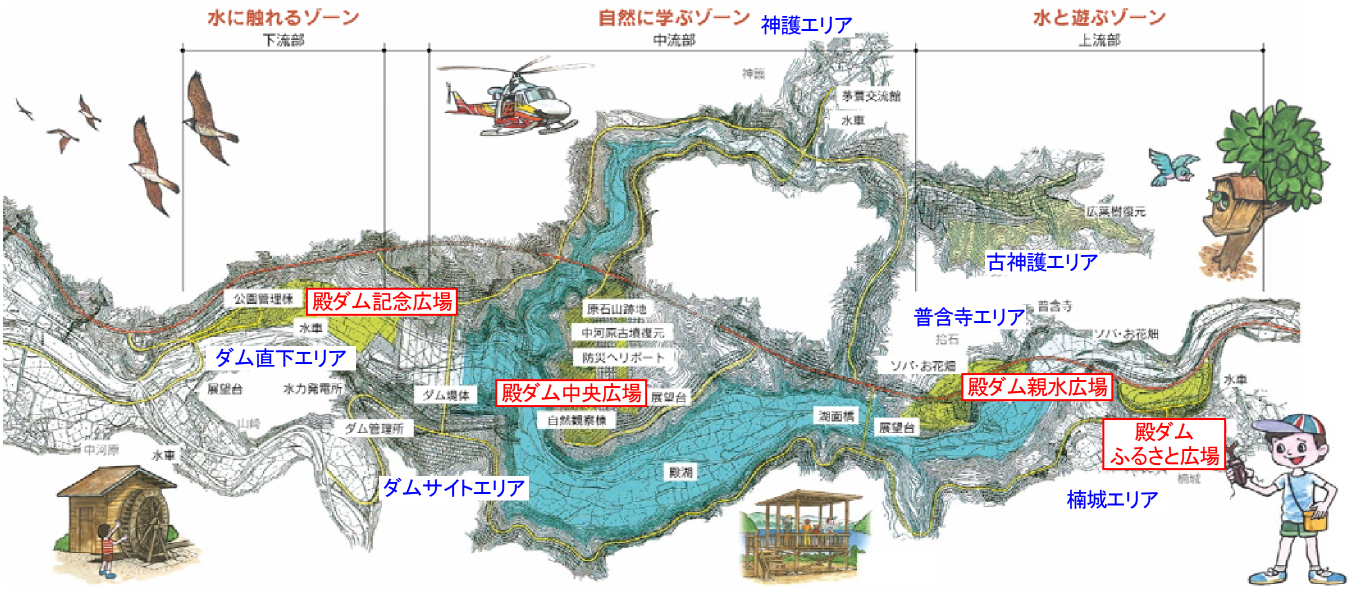
ふるさと再生 21 プランでは、ダム湖周辺をウォーキングトレイルとして位置づけ、これによってダム湖周辺の拠点施設を結びながら、周辺の自然景観や歴史・文化を活かしたダム周辺整備を目指す構想となっています。

基本理念	○地域住民の目線に立脚した無理のない計画とする ○地域住民も訪れる人々も満足感を共有できる視点での整備を図る

■ゾーニングと拠点整備

ゾーン	拠点整備	導入施設
水に触れる	記念広場	親水公園管理棟、多目的広場、散策道 水車、駐車場
自然に学ぶ	中央広場	多目的グラウンド、自然観察棟 防災用ヘリポート、（中河原古墳復元） 展望台、駐車場
水と遊ぶ	親水広場	親水施設、展望台、ソバ畑、お花畑 駐車場
	ふるさと広場	多目的広場、藤棚、水車、駐車場

【ウォーキングトレイル】
○安心して誰もが自由に散策できる道路
○住民にも来訪者にも満足してもらえる施設



■　殿ダム湖周辺土地利用基本計画図　（ふるさと再生 21 プランより）

(3)　「殿ダム水源地域ビジョン」の実行上の課題

・　殿ダム水源地域は、少子高齢化、後継者不足などに直面しており、水源地域が活気づくよう殿ダムの利活用を図り来訪者の輪を広げて、人材育成やダムＰＲや特産品の紹介などを鳥取市全体で取り組む必要があります。

・　拠点整備の導入施設については、具体的な管理運営の受け皿が決まっていません。このため、①自然、景観、歴史・文化などを活用した無理のない整備、②記念広場、中央広場についての具体的な利活用、③必要に応じて小規模な公園施設、舗装、階段・スロープなどを検討する必要があります。

・　ウォーキングトレイルは、地元と連携してダム活用を図るためのアイデアの一つであり、実施にあたっては、ウォーキング大会など有効な活用施策を検討することが必要です。

(4)　「殿ダム周辺整備の基本方針（ハード施策)」の概要

殿ダム周辺地域は、ロックフィルダムという巨大な人工構造物の出現と新たな湖面が加わり、国土保全・環境保全の観点からも引き続き美しい景観形成に努めていく必要があります。

このため、ダム建設事業で創出される新たな利用空間において環境回復を行うとともに、これらの資源を活用し、市民の余暇活動の需要に応え、水源地域の振興、交流の促進につなげることを目的とし、「殿ダム湖周辺地域ふるさと再生 21 プラン」を踏まえたダム湖の周辺整備について、以下の基本方針を掲げています。

殿ダム周辺整備の基本方針

基本理念

1　殿ダム周辺の自然環境の保全と再生を基本として景観に配慮した環境づくりを進める

2　殿ダム及びダム湖を拠点として地域資源を活かしたシンボル空間を創出する

3　ダム湖出現による新たな緑水空間が市民のレクリエーション需要に応え、かつ水源地域の振興や都市交流につながる

整備方針

「憩い、やすらぎの空間」を基本として、
ダム湖が創りだす自然環境、
景観を活かした整備

3.　ビジョンの目標、基本方針

3.1　ビジョンの目標

殿ダム水源地域ビジョンは、地域住民のみならず鳥取市の広範な人々の理解や共感を得ながら、多くの人々の参加によって万葉の時代から育まれてきた因幡の自然と文化を活かした地域づくりに取り組むものとし、以下に示す目標を掲げます。

前述した殿ダム周辺整備（ハード施策）と連携して推進することが重要となります。

殿ダム水源地域ビジョンの目標

万葉の歴史と
自然の恵みに誘われる
因幡のふるさと文化圏づくり

―― 万葉のきらめき・古里のいとなみ・湖畔へのいざない・
因幡につながる殿ダム水源地域ビジョン ――

■　殿ダム完成イメージ

【ビジョン目標のキーワードの意味】

“万葉の歴史”：地元国府町の歴史・文化を表すもの。
“自然の恵み”：水源地域の豊かな自然環境を表すもの。
“誘われる”：地域の魅力にふれること。
“因幡”：因幡国（いなばのくに）を象徴したキーワード。因幡国府が国府町に置かれていた。
“ふるさと文化圏づくり”：上下流の交流を促進していくこと。

3.2 基本方針

殿ダム水源地域ビジョンの目標を達成するための基本方針として、ダム周辺地域の自然環境を活かしながら、地域生活の実情を踏まえてこれに深く根ざすものとする必要があります。さらにダムや水源地域の様々な魅力が人々の中へ伝えられ、やがては上下流の幅広い交流を生み出していく必要があります。

このような観点から、殿ダム水源地域ビジョンでは、

> 「きらめき：自然の恵みを享受する」「いとなみ：じげの暮らしを楽しむ」
> 「いざない：郷土の語らいを広げる」「つながり：殿ダムの上下流の交流を深める」

の４つをビジョンの基本方針として定めます。

基本方針

1 きらめき：自然の恵みを享受する

殿ダム湖とその周辺の自然環境の保全と活用

- ○自然観察や様々な自然体験による自然との共生の学習
- ○世代を越えて伝える自然環境の保全
- ○ダム湖畔の魅力を引き出す自然環境の活用

2 いとなみ：じげの暮らしを楽しむ

大茅・成器の宝を磨いて地域生活の魅力を提供

- ○地域生活における様々な魅力の再発見
- ○ダム湖畔での散策・散歩を促す様々な仕掛け
- ○子どもの成長に貢献し、来訪者を呼び込む数々のイベント

3 いざない：郷土の語らいを広げる

殿ダムの観光や特産品の魅力の紹介と発信

- ○色々な広報媒体の活用
- ○地域事情に適った特産品活動の展開
- ○定期市や無人販売所による特産品のＰＲ

4 つながり：殿ダムの上下流の交流を深める

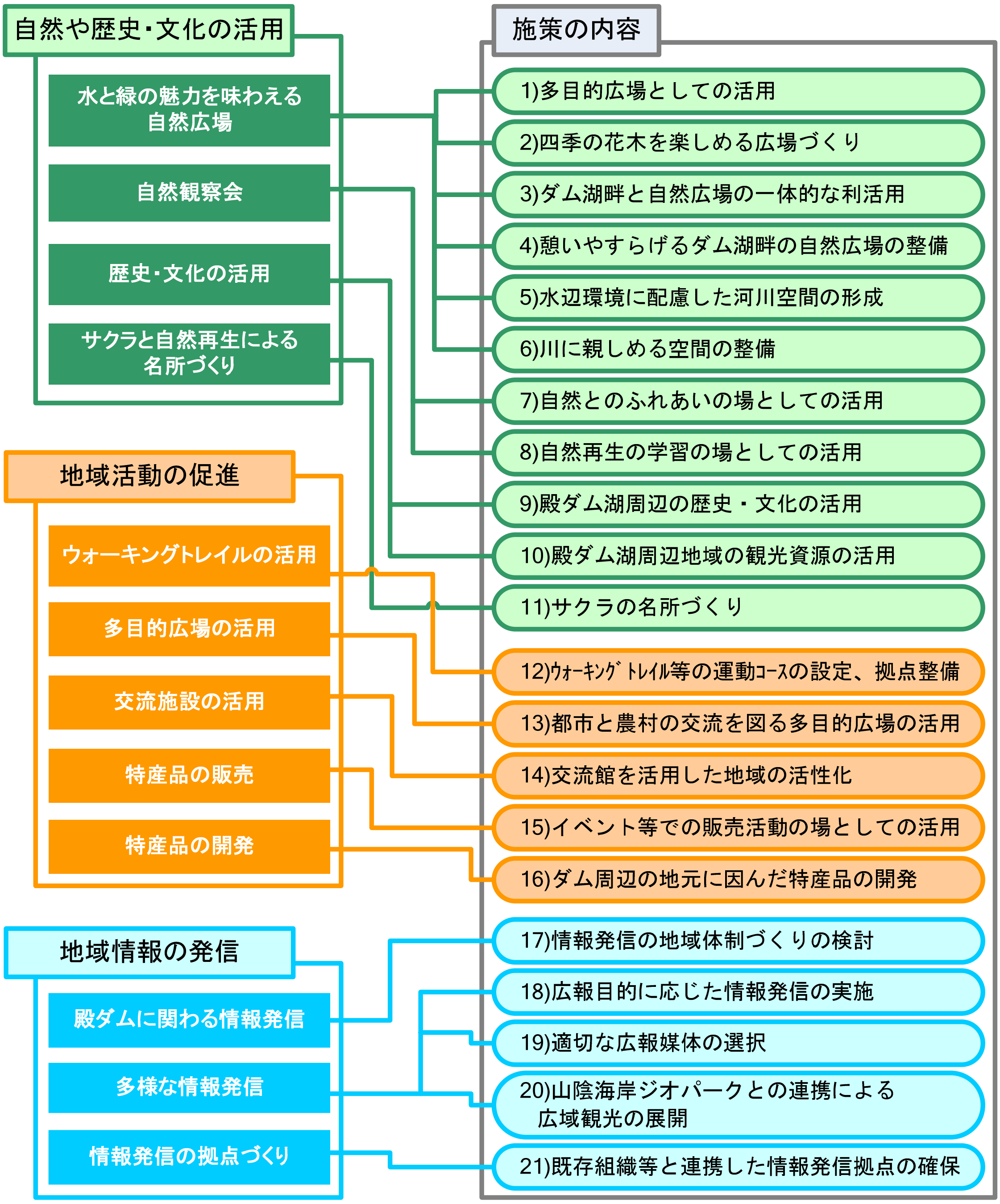
鳥取市全体による殿ダム活用の基盤づくり

- ○水源地域の負担解消に向けた広域な支援体制
- ○地元負担を僅少にした地元の受け皿づくり
- ○水源地域と受益地域の色々な交流促進

4. ビジョンの行動計画

4.1 行動計画の柱

殿ダム水源地域ビジョンを具体的に進める行動計画として、基本方針に基づいてビジョンの目標を実現するため、「自然や歴史･文化の活用」、「地域活動の促進」、「地域情報の発信」の3つの柱（視点）を掲げ、これらの柱に基づき、具体的な施策を設定しています。



■ 行動計画の柱と施策の体系

4.2　目標実現のための施策

(1)　施策の内容

行動計画では、以下に示す具体的な施策を位置づけています。

これらの施策については、次章に掲げる推進体制のもと、それぞれの施策に関連する関係者間で調整しつつ、具体化していくことが重要となります。

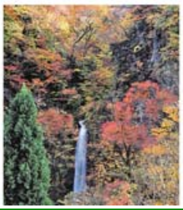
>>> 自然や歴史・文化の活用　【地域の恵みを享受する殿ダムの活用】

1) 多目的広場としての活用

●因幡全体や県内外からの広域の利用を想定した憩いの多目的広場としての整備により活用が図れます。

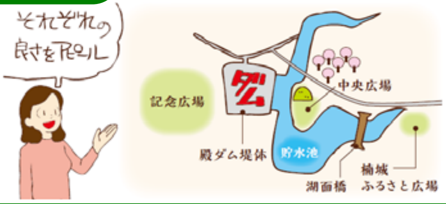
2) 四季の花木を楽しめる広場づくり

●市民との協働による植栽を行い、四季の花木を楽しめる緑豊かな広場として活用が図れます。



3) ダム湖畔と自然広場の一体的な利活用

●ダム堤体直下～ダム天端～上流湖面橋を結ぶ動線を活用し、自然広場との一体的な利活用が図れます。



4) 憩いやすらげるダム湖畔の自然広場の整備

●ダム湖畔の景観に配慮し、湖面と自然環境の中で憩いやすらぎの場となる広場の整備により活用が図れます。

5) 水辺環境に配慮した河川空間の形成

●水辺と自然とのふれあいのため、水辺に近づきやすい護岸形状を工夫するなど環境に配慮した河川空間の形成により活用が図れます。

6) 川に親しめる空間の整備

●河川を活用した渓流釣りが楽しめる場など、川に親しむことが出来る空間の整備により活用が図れます。

7) 自然とのふれあいの場としての活用

●水生生物の自然観察会や野鳥の観察会など、周辺地域の小学校等で実施している生物とのふれあいの場としての活用が図れます。

8) 自然再生の学習の場としての活用

●自生種による生態系修復として広葉樹の植樹を行うことで、自然再生の学習の場としての活用が図れます。

9) 殿ダム湖周辺の歴史・文化の活用

●地元のガイドクラブなど、観光ボランティア組織と連携した殿ダム湖周辺の歴史・文化の勉強会の実施等により、地域ガイドの育成が図れます。

10) 殿ダム湖周辺地域の観光資源の活用

●殿ダム湖周辺地域の名所の案内として、ウォーキングトレイル計画と連携したマップの作成、ダム湖周辺での観光名所の案内板の設置等の推進により活用が図れます。

11) サクラの名所づくり

●ヤマザクラの試験植樹や市民との協働による植栽により、サクラの名所としての活用が図れます。

>>>地域活動の促進　【様々な地域活動から殿ダムの利活用促進】

12)ウォーキングトレイル等の運動コースの設定、拠点整備

●ダム湖周辺地域や袋川流域全体など、ウォーキングやその他スポーツの魅力あるコース設定と、それに合わせた拠点の整備により活用が図れます。

13)都市と農村の交流を図る　多目的広場の活用

●都市と農村との交流の場として、多目的広場の利活用を図ることで、地域活動の促進を図れます。

14)　交流館を活用した地域の活性化

●貴重な茅葺き屋根のある交流館を活用し、都市住民の山村暮らし体験等を行うことで、地域の活性化が図れます。

15)イベント等での販売活動の場としての活用

●来訪者が集まるイベント等で地元特産品の販売活動を行い、都市住民と地元住民、上下流域の住民間の交流等の推進が図れます。

16)ダム周辺の地元に因んだ特産品の開発

●ダム湖周辺の自然環境や歴史・文化に因んだ新しい特産品の開発を行うことで地域の活性化が図れます。

>>>地域情報の発信　【殿ダムや水源地域の魅力を多くの市民へ周知】

17) 情報発信の地域体制づくりの検討

●情報発信の目的、情報発信の内容、使用する媒体、情報発信の拠点などについて検討し、情報発信を担当できる人材育成や、既存の組織・団体と連携した情報発信の地域体制の構築により、市民への周知が図れます。

18) 広報目的に応じた情報発信の実施

●情報発信の目的毎に対応した情報を組み合わせて発信していくことで、より効果的に市民への周知が図れます。

ⓐイベント　ⓑダム関わる歴史　ⓒ自然
ⓓ地域社会　ⓔ従来からの既存資源
ⓕ新しく創出する場所　ⓖライブ情報
ⓗダムと川の安全　ⓘアクセス情報

19) 適切な広報媒体の選択

●情報に適った媒体として、イベント等についてはＨＰや鳥取市報等の広報誌、ダムに関わる歴史等については、鳥取県の社会教育等の利用の検討により、市民への周知が図れます。

20) 山陰海岸ジオパークとの連携による広域観光の展開

●ダム上流域の山陰海岸ジオパーク扇ノ山エリアと連携していくことで、広域観光の積極的な展開を図ることができます。

21) 既存組織等と連携した情報発信拠点の確保

●既存の組織と連携した情報発信の拠点づくりを行うことで、殿ダムや水源地域の魅力等、多くの市民への周知が図れます。

(2)　鳥取市の施策との関係

ビジョンの行動計画について、鳥取市の政策との関連性について示します。

行動計画の柱	主な施策	施策の内容
自然や歴史・文化の活用	水と緑の魅力を味わえる自然広場	1）因幡全体や県内外からの広域の利用を想定した憩いの多目的広場としての整備により活用が図れます。
		2）市民との協働による植栽を行い、四季の花木を楽しめる緑豊かな広場として活用が図れます。
		3）ダム堤体直下～ダム天端～上流湖面橋を結ぶ動線を活用し、自然広場との一体的な利活用が図れます。
		4）ダム湖畔の景観に配慮し、湖面と自然環境の中で憩いやすらぎの場となる広場の整備により活用が図れます。
		5）水辺と自然とのふれあいのため、水辺に近づきやすい護岸形状を工夫するなど環境に配慮した河川空間の形成により活用が図れます。
		6）河川を活用した渓流釣りが楽しめる場など、川に親しむことが出来る空間の整備により活用が図れます。
	自然観察会	7）水生生物の自然観察会や野鳥の観察会など、周辺地域の小学校等で実施している生物とのふれあいの場としての活用が図れます。
		8）自生種による生態系修復として広葉樹の植樹を行うことで、自然再生の学習の場としての活用が図れます。
	歴史・文化の活用	9）地元のガイドクラブなど、観光ボランティア組織と連携した殿ダム湖周辺の歴史・文化の勉強会の実施等により、地域ガイドの育成が図れます。
		10）殿ダム湖周辺地域の名所の案内として、ウォーキングトレイル計画と連携したマップの作成、ダム湖周辺での観光名所の案内板の設置等の推進により活用が図れます。
	サクラと自然再生による名所づくり	11）ヤマザクラの試験植樹や市民との協働による植栽により、サクラの名所としての活用が図れます。
地域活動の促進	ウォーキングトレイルの活用	12）ダム湖周辺地域や袋川流域全体など、ウォーキングやその他スポーツの魅力あるコース設定と、それに合わせた拠点の整備により活用が図れます。
	多目的広場の活用	13）都市と農村との交流の場として、多目的広場の利活用を図ることで、地域活動の促進を図れます。
	交流施設の活用	14）貴重な茅葺き屋根のある交流館を活用し、都市住民の山村暮らし体験等を行うことで、地域の活性化が図れます。
	特産品の販売	15）来訪者が集まるイベント等で地元特産品の販売活動を行い、都市住民と地元住民、上下流域の住民間の交流等の推進が図れます。
	特産品の開発	16）ダム湖周辺の自然環境や歴史・文化に因んだ新しい特産品の開発を行うことで地域の活性化が図れます。
地域情報の発信	殿ダムに関わる情報発信	17）情報発信の目的、情報発信の内容、使用する媒体、情報発信の拠点などについて検討し、情報発信を担当できる人材育成や、既存の組織・団体と連携した情報発信の地域体制の構築により、市民への周知が図れます。
	多様な情報発信	18）情報発信の目的ごとに対応した情報を組み合わせて発信していくことで、より効果的に市民への周知が図れます。
		19）情報に適った媒体として、イベント等についてはＨＰや鳥取市報等の広報誌、ダムに関わる歴史等については、鳥取県の社会教育等の利用の検討により、市民への周知が図れます。
		20）ダム上流域の山陰海岸ジオパーク扇ノ山エリアと連携していくことで、広域観光の積極的な展開を図ることができます。
	情報発信の拠点づくり	21）既存の組織と連携した情報発信の拠点づくりを行うことで、殿ダムや水源地域の魅力等、多くの市民への周知が図れます。

鳥取市の政策との関連性	
鳥取市長マニフェストに対応する項目	第９次総合計画リーディングプロジェクト
●市民の健康を守る ・ 健康づくりと医療と福祉の連携・融合の実現	●健康で安全・安心な暮らしづくりプロジェクト 【健康づくり・医療・福祉施策の充実】 ・ スポーツやレクリエーション等の利用も含め、憩いと健康づくりの場としての活用を図る。
●緑あふれるまちへ ・ 広葉樹を増やし、山を守り、緑あふれるまちづくり	●自然環境や伝統文化を守る快適な「とっとりライフ」プロジェクト 【緑あふれるまちづくりの推進】 ・ ダム湖畔と湖面・河川との自然環境とふれ合い、憩いやすらげる空間を確保する。
●鳥取力を高める ・ ふるさとを大切にし、強い志を持つ子どもを育てる ●緑あふれるまちへ ・ 広葉樹を増やし、山を守り、緑あふれるまちづくり	●ふるさとを大切にする心豊かな人づくりプロジェクト 【「ふるさとを思い志をもつ子」を育む教育の推進】 ・ 自然豊かな水辺環境を創出し、子どもたちが水辺の自然環境とふれあえる場とすることで、ふるさとの自然を大切にする心を養う。 ・ 自生種による広葉樹の植栽実験などを通じて、大学と地元による育林活動の場としての活用を図る。
●鳥取力を高める ・ 新たな中山間地域対策の推進 ●山陰海岸ジオパークを世界へ ・ 因幡全体の広域観光の積極的展開	●自然環境や伝統文化を守る快適な「とっとりライフ」プロジェクト 【伝統文化の保存等の推進】 ・ 地元のガイドクラブによる継続的なガイド活動を通じて、殿ダム湖周辺地域の観光資源の活用を図り、因幡全体の広域観光の拠点の一つとして位置づける。
●緑あふれるまちへ ・ 広葉樹を増やし、山を守り、緑あふれるまちづくり	●自然環境や伝統文化を守る快適な「とっとりライフ」プロジェクト 【緑あふれるまちづくりの推進】 ・ 自然環境と調和した環境づくりを市民との共同作業により実施する。
●緑あふれるまちへ ・ 広葉樹を増やし、山を守り、緑あふれるまちづくり	●自然環境や伝統文化を守る快適な「とっとりライフ」プロジェクト 【緑あふれるまちづくりの推進】【伝統文化の保存等の推進】 ・ ウォーキング大会等、流域を対象としたウォーキングのコース設定や、拠点整備を行うことで、豊かな自然や伝統文化の保存・活用が図られる。
●鳥取力を高める ・ 地域で活躍する人材を増やす ・ 新たな中山間地域対策の推進 ・ 協働のまちづくりを強力に支援	●中山間地域の暮らしを支えるプロジェクト 【交流による活性化と移住定住の推進】 【魅力ある地域づくり・人づくりの推進】 ・ 都市と農村との交流を深め、地域活性化を支援する。
●鳥取の特産をブランド化し全国販売 ・ 市内各地の数多くの特産品の生産とブランド化の支援	●中山間地域の暮らしを支えるプロジェクト 【地場産業の活性化と雇用の確保】 ●「打って出る」大作戦プロジェクト 【販路拡大の促進】 ・ 地元の特性を活かした特産品活動の振興を図る。
●山陰海岸ジオパークを世界へ ・ 因幡全体の広域観光の積極的展開 ●地域交通・防災システムの充実 ・ 防災体制の充実・強化を図り、災害に強い安全・安心な暮らしの実現 ●鳥取力を高める ・ 新たな中山間地域対策の推進による協働のまちづくりの支援	●「打って出る」大作戦プロジェクト 【魅力ある観光地づくりの推進】 ●健康で安全・安心な暮らしづくりプロジェクト 【災害に強いまちづくりの推進】 ・ 殿ダム周辺地域の紹介やダム建設事業の背景、経緯などの情報発信の展開を図る。 ・ 殿ダムからの情報発信により防災体制の充実・強化を図る。 ・ 殿ダム湖周辺地域からの情報発信の体制づくりを推進する。

5.　ビジョンの推進方策

5.1　推進体制

(1)　実施スケジュール

行動施策メニューについては、ダム湖の周辺整備の進捗状況に合わせて、無理なく、着実に実行できる施策から段階的に取り組んでいくことが重要です。行動計画の実施時期は、短期（1 年～3 年)、中期（4 年～6 年)、長期（7 年～10 年）の大きく 3 つの時期を目安に、早期に取り組みが可能なメニューから順次取り組んでいくことが望まれます。行動施策メニューの実施スケジュール（案）を以下に示します。

ステップ１（短期）：策定～実施・推進への移行期

- 早期に実行可能で実施効果がわかりやすいアクションプランを中心に取り組む。（ビジョン推進のきっかけづくり）

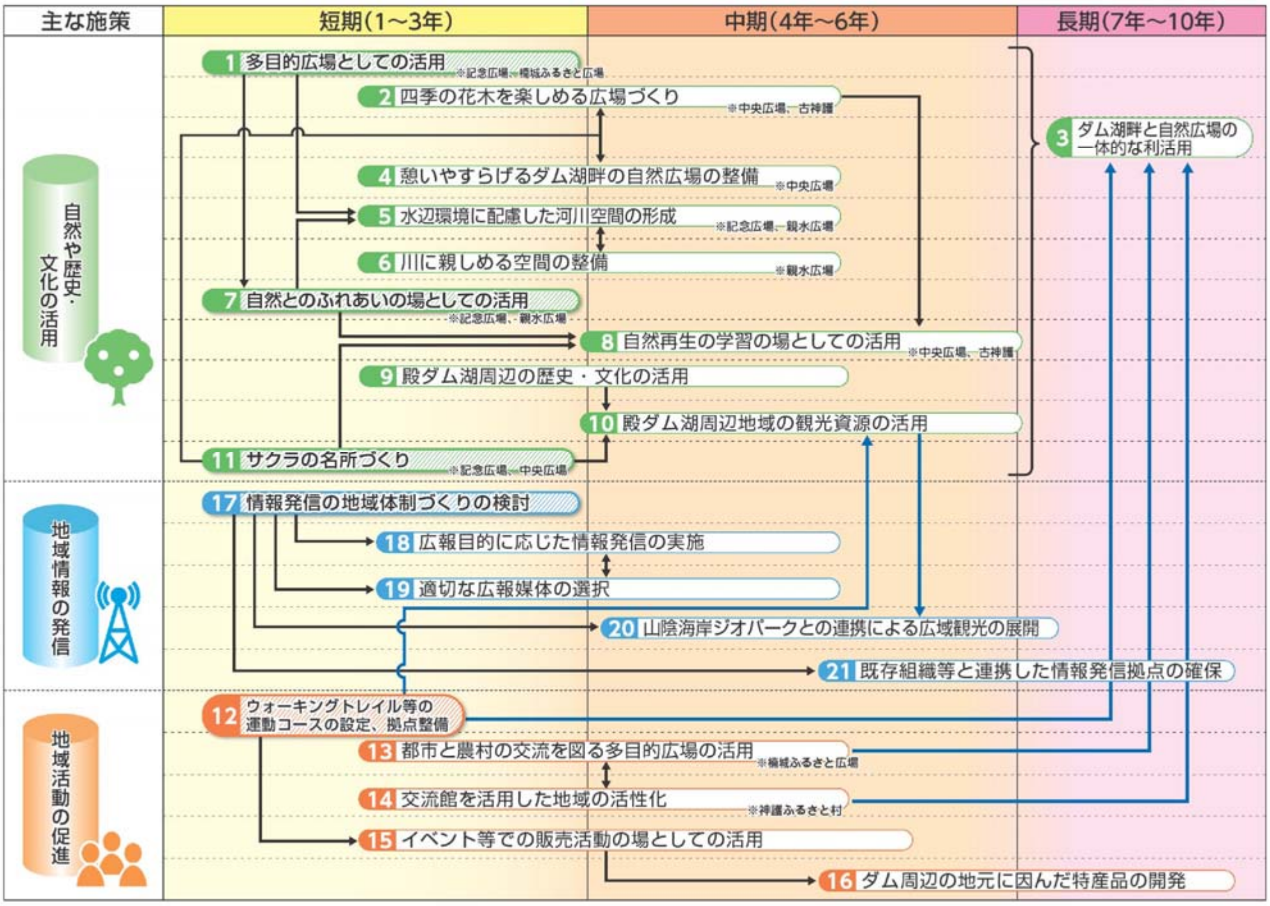
ステップ２（短期～中期）：ビジョン施策の展開期

- 初期の取り組みによる地域の機運の高まりを踏まえて、短期～中期にかけて取り組む施策の実施に向けた準備と実行。

ステップ３（中期～長期以降）：ビジョン施策の発展期

- 中期までの取り組み状況を踏まえて、その他の施策の具体化に向けた実行と拡大。

■　行動施策メニューの実施スケジュール（案）



(2)　ビジョンの体制

殿ダム水源地域ビジョンを推進していくためには、殿ダムの利活用に関連する各種団体・組織と行政との連携が必要です。関係者間の役割分担や連携を円滑に進めていくための核となる『殿ダム水源地域ビジョン連絡会議（仮称)』を設置し取り組むことが重要です。以下に示す活動を通じて、継続的なフォローアップを行っていきます。

ビジョン連絡会議の目的

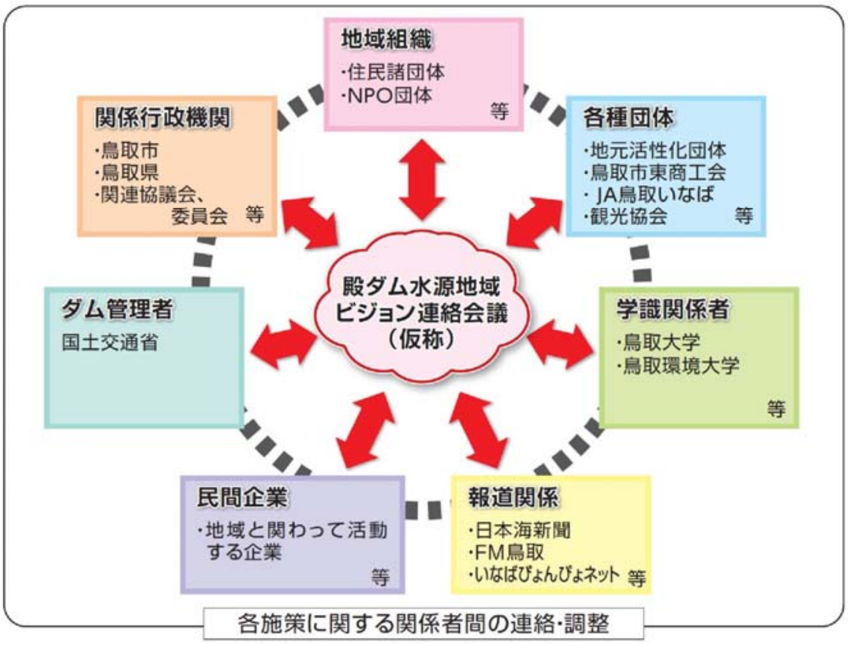
- **取り組み内容の実施に向けた関係者相互の連絡・調整**
- **ビジョンの継続的な実施状況の確認や評価、社会経済の変化などに対応した施策の見直し**

ビジョン連絡会議の運営

・ ビジョン連絡会議を運営する事務局を設置し、関係者間の連絡調整を行う。
・ この事務局はビジョンに関する窓口としての機能を有するものとする。

ビジョン連絡会議の活動のイメージ

・ 地域住民や関係機関および各施策の主体など、主要な関係者による「殿ダム水源地域ビジョン連絡会議（仮称)」を設置し、定期的に開催する。
・ ビジョンの具体化に向けた意見交換や調整の場とする。
・ ビジョンで位置づけた施策毎の実施状況などについて報告し、情報共有の場とする。
・ 水源地域全体として目指していく方向性について、継続的にフォローアップを行い、活動内容の見直しや改善、支援策等について意見交換を行う。
・ 施策に関する広報やＰＲに関する役割分担等の調整を行う。



■　推進体制のイメージ

5.2 ビジョン推進に向けた今後の展開

殿ダム水源地域ビジョンを推進していくため、今後の取り組みにおける着目点を以下に示します。ビジョン連絡会議の設置や施策の具体化に向けた実施計画の検討等について、関係機関の支援や連携のもと積極的に取り組むことが望まれます。

【着目点１】ビジョン連絡会議の設置に向けた準備

- □ 準備会の設置（体制づくりのための関係者間の調整）
- □ 役割の設定（事務局など関係者毎の関わり方の調整）
- □ 活動推進のための体制名称やキャッチフレーズ等の検討
- □ 住民（実施主体等）と事務局とのプロジェクトチームの構築等、施策推進に関わるルールづくり

【着目点２】施策毎の実施計画の検討

- □ 施策の年次計画の検討
- □ 評価指標や達成目標の設定
- □ 住民、地域団体、行政等の役割分担の検討

【着目点３】住民参加に向けた留意事項

- □ 住民の参加機会の設定（住民参加のための緩やかなルールづくり）
- □ 事務局や各活動への参加の啓発（広報による PR や呼びかけ）
- □ 定常的に市民からの意見を収集できる機会の創出

6.　施策メニューの具体的な内容

6.1　先行して実施する施策の内容

殿ダム水源地域ビジョンにおいて、直ちにビジョンの実現に向けた活動を開始し、行動計画を具体化していくことが必要です。このため、行動計画として掲げた施策から、先行して実施するアクションプランを設定しています。

アクションプランでは、ダム湖周辺の拠点広場の整備等により比較的早期に対応可能な施策や、イベント等の実施により計画の早期定着が期待される施策等を優先的に実施し、それぞれの行動施策メニューに展開していきます。

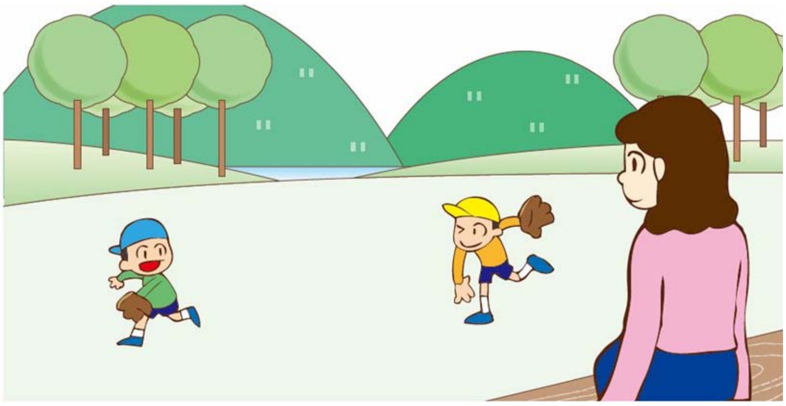
アクションプラン

- プラン１：1）多目的広場としての活用
- プラン２：7）自然とのふれあいの場としての活用
- プラン３：11）サクラの名所づくり
- プラン４：12）ウォーキングトレイル等の運動コースの設定、拠点整備
- プラン５：17）情報発信の地域体制づくりの検討

■　ウォーキングトレイルのイベント実施例（H22.10.31）

【アクションプラン－１】

自然や歴史・文化の活用【地域の恵みを享受する殿ダムの活用】	
主な施策	◆水と緑の魅力を味わえる自然広場
施策メニュー	1)多目的広場としての活用 ●因幡全体や県内外からの広域の利用を想定した憩いの多目的広場としての整備により活用が図れます。
具体的な内容	(1) 多目的な利用を可能とする広場を整備し活用する。 ・ 多目的な利用を想定した広場スペースの確保 （例えば、キャンプ、ハイキング、花見、グランドゴルフやサッカー等） ・ 野外コンサートやレクリエーションなど、団体でも利用可能なスペースの確保 ・ ダム堤体や周囲の自然景観を活かした眺望スペースの充実 ・ はだしであそべる広場づくり（“鳥取方式”による芝生化） ・ 必要最小限の利用施設の充実（例えば、手洗い場、環境型トイレ、管理棟等） ・ ふるさと広場等の既存の拠点広場との連携による利用面の拡充 (2) 広域からの利用を促す必要施設の充実を図る。 ・ 楠城のふるさと広場交流館等の周辺拠点での案内など、広場へのアクセスを促す案内看板や表示看板の充実 ・ 駐車場などの滞留施設の充実 ・ 広場の場所や整備内容に関する情報発信による利用の促進 (3) 継続的な維持管理による快適な利用環境づくりに取り組む。 ・ 維持管理し易い必要最小限の整備 ・ 施設管理者や地元まちづくり委員会等と連携し、各種利用団体等のボランティア協力も含め、清掃等の広場の日常的な維持管理の仕組みづくり
実施に向けての課題	◆ 多目的広場として必要最小限の整備を行うとともに、多様な利用ニーズに対応できるよう、施設の拡充、連携を図っていく必要がある。 ◆ 平成 24 年度の鳥取自動車道の全線開通に向けて、ＩＣ等からのアクセス利便性を向上させる案内標識等の充実を図る必要がある。



（多目的広場の利用イメージ）

（楠城地区のふるさと広場）

【アクションプラン－２】

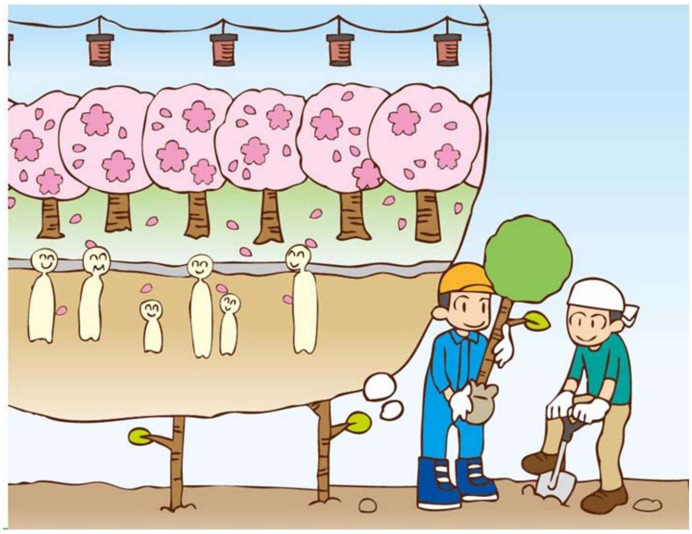
自然や歴史・文化の活用【地域の恵みを享受する殿ダムの活用】	
主な施策	◆自然観察会
施策メニュー	7)自然とのふれあいの場としての活用 ●水生生物の自然観察会や野鳥の観察会など、周辺地域の小学校等で実施している生物とのふれあいの場としての活用が図れます。
具体的な内容	(1) 自然観察会等で利用するための観察スペースを充実させる。 ・　広場から安全に水辺へ降りることができる緩傾斜河岸やアクセス坂路の確保 ・　安全に学習を行うための水際部での適度な平場スペースの確保 ・　観察結果のとりまとめ等の集会のできるスペースの確保 ・　バス等での来場を想定した大型車の駐車スペースの確保 ・　学習利用するための説明看板、学習教材等の充実 (2) 環境学習等での利用に向けた学習プログラムを作成する。 ・　水生生物の観察（例えば、魚しらべ、水生生物による水質の簡易調査等） ・　野鳥観察（例えば、四季の野鳥観察、ダム湖の野鳥等） ・　中国地方最大の高さを誇るロックフィルダム堤体の見学 （例えば、殿ダムの役割、殿ダムの構造、殿ダムの歴史等） ・　学習用パンフレットの作成（例えば、いきもの図鑑、歴史・文化マップ等） (3) 周辺地域の小学校や教育関係者等と連携し、総合学習等のカリキュラムへの取り込みにより、継続性ある体験学習の場として活用する。 ・　周辺地域の小学校で実施している水生生物調査等との連携 （例えば、水辺の楽校等） ・　総合学習カリキュラム等に準じた学習プログラムの検討
実施に向けての課題	◆　自然環境ガイド等、学習利用をサポートするガイドや講師などの人材育成と派遣するための仕組みづくりを行う必要がある。 ◆　山陰海岸ジオパークの扇ノ山エリアにある扇ノ山や雨滝、河合谷高原など、地域の歴史・文化的な地質遺産を体験・学習できる場づくりを目指す。

（自然観察会等の利用イメージ）

（水辺の生き物観察）

【アクションプラン－３】

自然や歴史・文化の活用【地域の恵みを享受する殿ダムの活用】	
主な施策	◆サクラと自然再生による名所づくり
施　　策 メニュー	11）サクラの名所づくり ●ヤマザクラの試験植樹や市民との協働による植栽により、サクラの名所としての活用が図れます。
具体的 な内容	⑴ 多種のサクラが楽しめるサクラの名所づくりを進める。 ・　サクラの試験植樹による植栽可能な品種の選定 ・　花見等で利用できる広場スペースの確保 ・　花木の開花状況などの情報発信による積極的な施設ＰＲの推進 ・　鳥取市や地元 NPO 等と連携した維持管理の仕組みづくり ⑵ 市民との協働によるサクラ等の植栽の仕組みづくりを進める。 ・　市民の体験型参加イベントによる苗木の植栽 （例えば、苗木の寄付による植栽、ダム湖千本サクラのオーナー制度設置等） ⑶ 四季の花木を通じて、自然と親しみ、「憩い、やすらぎの空間」として、ダム湖が創りだす自然環境・景観資源等の充実を図る。 ・　サクラや紅葉などの四季を感じられる樹木を植樹 ・　昆虫採集など親子で自然と親しめるような雑木林 ・　自生種を用いた法面緑化による四季を感じる良好な景観の形成 ・　果実のなる植物等、"食" を通じて、憩える空間づくり
実施に 向けて の課題	◆　植樹後の幼木段階での除草などの管理方法について、苗木の寄付、植樹のオーナー制度等と合わせて検討する必要がある。 ◆　イベント等も用いたＰＲ等、人々の関心を集め、認知度を高めていくための方策について検討が必要である。（例えば、殿ダム・サクラ祭り（仮称）等）



（サクラの名所づくりイメージ）

（サクラの試験植樹の状況）

【アクションプラン－４】

地域活動の促進【様々な地域活動から殿ダムの利活用促進】	
主な施策	◆ウォーキングトレイルの活用
施　策 メニュー	12）ウォーキングトレイル等の運動コースの設定、拠点整備 ●ダム湖周辺地域や袋川流域全体など、ウォーキングやその他スポーツの魅力あるコース設定と、それに合わせた拠点の整備により活用が図れます。
具体的 な内容	(1) ウォーキングやミニマラソン、サイクリング等、多様な利用ニーズに対応した魅力あるスポーツコースを設定する。 ・　殿ダム湖周辺と袋川流域の自然環境、景観の魅力を満喫できるコース設定 ・　万葉の歴史・文化にも触れられる観光名所と連携したコースの設定（例えば、大伴家持等の万葉の歌碑、万葉歴史館等） ・　健康づくりに配慮したコースの設定（例えば、子供や高齢者へ配慮し、コースの距離や高低差が選択できる等） (2) 各種スポーツコースの紹介や、継続したイベント開催、関連団体との連携により、利用促進に向けたＰＲ活動を推進する。 ・　各種のスポーツ向けコースメニューをＨＰ等で公開し、利用者へのＰＲを図る。 ・　殿ダムウォーキング大会等のイベントの継続実施による定例イベント化 ・　関連団体と連携したコースＰＲと利用促進方策の実施（例えば、ウォーキング立県 19 のまちを歩こう事業の認定大会としての継続的な利用促進づくりの検討） (3) 案内看板や休憩施設等を充実し、利用し易いスポーツコースづくりに取り組む。 ・　コース案内看板の充実（例えば、殿ダム周辺の自然環境の紹介、コース距離表示） ・　地元の名所や歴史・文化を紹介する説明看板等の充実 ・　休憩等で利用できる拠点施設の充実（例えば、トイレ、ベンチなど） (4) スポーツコースを利用する上で役立つガイドブックやマップを作成する。 ・　利用時に役立つ情報の掲載（例えば、休憩ポイントとなる拠点広場等の紹介、拠点間の距離、トイレや駐車場の位置、特産品紹介、緊急時の連絡先等） ・　観光名所や周辺の歴史・文化の紹介（例えば、流域の自然やいきもの、良好な眺望景観ポイント、雨滝などジオパークサイト等の紹介）
実施に 向けて の課題	◆　安全・安心なスポーツコースの維持管理においては、地元まちづくり委員会などのボランティアとも連携した仕組みづくりの検討が必要である。 ◆　山陰海岸ジオパークの扇ノ山エリアにある雨滝など、地域の歴史・文化的な地質遺産を体験できるウォーキングコースの検討も考えられる。

（ウォーキング利用状況：2010 殿ダムウォーキング大会）

【アクションプラン－５】

地域情報の発信【殿ダムや水源地域の魅力を多くの市民へ周知】	
主な施策	◆殿ダムに関わる情報発信
施　策 メニュー	17）情報発信の地域体制づくりの検討 ●情報発信の目的、情報発信の内容、使用する媒体、情報発信の拠点などについて検討し、情報発信を担当できる人材育成や、既存の組織・団体と連携した情報発信の地域体制の構築により、市民への周知が図れます。
具体的な内容	(1) 情報発信に関する基本計画について検討し、情報発信するための地域体制づくりに取り組む。 ・　情報発信したい内容や目的に関する検討 ・　情報の種類に応じた効果的な情報ネットワークや使用媒体の選択 （例えば、ホームページ、関係機関の広報誌、各種情報誌、ブログ、メルマガ等） ・　既存の組織・団体との連携した情報発信の地域体制づくり （例えば、成器地区まちづくり委員会、上地の扇の里グループ、雨滝のとうふ工房、町屋の上野山ダッシュ村など） (2) イベント等と連携した積極的な情報発信について試行する。 ・　鳥取市などの殿ダム周辺地域で開催されるイベント等でのパネル展示や特産品の販売など
実施に向けての課題	◆　情報発信を担う組織について、必要な人材育成も含め、既存の各種組織・団体等との連携が必要である。 ◆　持続可能な情報発信体制づくりのため、情報を受信する地域住民や鳥取市街地、県外利用者へのアンケート等を実施・フォローアップし、情報発信の目的や内容などについて、適宜検討・更新していくことが重要である。

（殿ダムパネル展の状況：平成のピラミッド殿ダム建設事業を紹介するパネル展　H22.10～11）

6.2 中長期的に取り組む施策メニューの内容

アクションプランに続いて具体化していく施策メニューの実施内容及び課題を以下に示します。これらの施策については、アクションプランの結果を踏まえて適宜調整を図り実施していくことが必要です。

【NO.2】

自然や歴史・文化の活用【地域の恵みを享受する殿ダムの活用】	
主な施策	◆水と緑の魅力を味わえる自然広場
施策メニュー	2）四季の花木を楽しめる広場づくり ●市民との協働による植栽を行い、四季の花木を楽しめる緑豊かな広場として活用が図れます。
具体的な内容	・ 殿ダムのシンボル空間としてサクラや紅葉などの四季を感じられる樹木の植栽 ・ 果実のなる植物等“食”を通じた憩いの空間づくり ・ 市民の体験参加型イベントによる苗木の植栽 ・ 自生種を用いた法面緑化による四季を楽しめる良好な景観の形成
実施に向けての課題	・ 植樹後の幼木段階での除草など、日常的な維持管理方法の役割分担、仕組みづくりの検討が必要である。 ・ 苗木の寄付、植樹オーナー制度等の活用方策も検討していくことが重要である。 ・ 人々の関心を集め、認知度を高めていくための情報発信方策の検討が必要である。

【NO.3】

自然や歴史・文化の活用【地域の恵みを享受する殿ダムの活用】	
主な施策	◆水と緑の魅力を味わえる自然広場
施策メニュー	3）ダム湖畔と自然広場の一体的な利活用 ●ダム堤体直下～ダム天端～上流湖面橋を結ぶ動線を活用し、自然広場との一体的な利活用が図れます。
具体的な内容	・ 拠点間の動線を利用したウォーキングや散策、サイクリング等の利活用の促進 ・ 記念広場～中央広場～親水広場や既設施設（楠城のふるさと広場交流館等）を主要拠点として位置づけ、一体的な利用を図る上で必要な機能を確保（休憩機能、滞留機能、拠点間を繋ぐ案内・説明等） ・ ガイドマップ（主要拠点、名所、自然環境等）等の作成による利活用の促進
実施に向けての課題	・ 施設管理者や地元まちづくり委員会、利用団体等と連携した清掃等、日常的な維持管理の役割分担、仕組みづくりの検討が必要である。 ・ 19 のまちを歩こう（鳥取県 H22 年度事業）等のコース認定制度を活用し、動線の持続的な利活用の推進が必要である。

【NO.4】

自然や歴史・文化の活用【地域の恵みを享受する殿ダムの活用】	
主な施策	◆水と緑の魅力を味わえる自然広場
施　策 メニュー	4）憩いやすらげるダム湖畔の自然広場の整備 ●ダム湖畔の景観に配慮し、湖面と自然環境の中で憩いやすらぎの場となる広場の整備により活用が図れます。
具体的 な内容	・ダム湖畔に位置する中央広場は、湖面と自然環境の中で、来訪者にとって憩い・やすらぎの場となる空間づくりの推進 ・野鳥観察を行う閑静なやすらぎ空間づくりの推進 ・利用者が閑静な空間でゆっくり滞留できるように配慮した環境づくり ・湖面に映る四季の変化を楽しめる良好な景観形成の推進
実施に 向けて の課題	・施設管理者や地元まちづくり委員会、利用団体等と連携した清掃等、日常的な維持管理の役割分担、仕組みづくりの検討が必要である。

【NO.5】

自然や歴史・文化の活用【地域の恵みを享受する殿ダムの活用】	
主な施策	◆水と緑の魅力を味わえる自然広場
施　策 メニュー	5）水辺環境に配慮した河川空間の形成 ●水辺と自然とのふれあいのため、水辺に近づきやすい護岸形状を工夫するなど環境に配慮した河川空間の形成により活用が図れます。
具体的 な内容	・自然広場から安全に水辺へ降りることができるスロープ・階段等の設置、水際部での適度な利用スペースの確保 ・多自然川づくりを目指し、水位の変化に富んだ水辺、石や木材などを使った生物生息・生育環境に適した河川空間の創出
実施に 向けて の課題	・安全に利用できるよう、河川の瀬淵などの状況を考慮したアプローチ施設の配置などの検討が必要である。 ・水際部については、流下土砂や漂流塵芥の堆積などが想定されるため、維持管理し易い護岸形状や構造について検討が必要である。

【NO.6】

自然や歴史・文化の活用【地域の恵みを享受する殿ダムの活用】	
主な施策	◆水と緑の魅力を味わえる自然広場
施　策 メニュー	6）川に親しめる空間の整備 ●河川を活用した渓流釣りが楽しめる場など、川に親しむことが出来る空間の整備により活用が図れます。
具体的 な内容	・既設護岸や河川を利用し、渓流釣りが楽しめる広場空間の確保 ・「国府マスつりフェスタ」等での活用（会場設営や駐車スペース）に配慮した広場空間の配置 ・「魚しらべ」等の子供たちの環境学習の場として活用できるよう、安全に水際へのアクセスできる坂路、階段等の設置
実施に 向けて の課題	・出水時に冠水する区域となるため、安全な利用に関する注意喚起の看板や啓発パンフレット等についても検討が必要である。 ・親水性の高い自然広場空間としての利活用の検討が必要である。

【NO.8】

自然や歴史・文化の活用【地域の恵みを享受する殿ダムの活用】	
主な施策	◆自然観察会
施策メニュー	8）自然再生の学習の場としての活用 ●自生種による生態系修復として広葉樹の植樹を行うことで、自然再生の学習の場としての活用が図れます。
具体的な内容	・ 自生種による生態系修復として、大学等の研究機関などと連携し、広葉樹の植栽による法面緑化を実施し、自然再生の学習の場として活用 ・ ドングリ苗の植栽体験等、体験イベントによる植栽を通じた法面緑化に関する学習プログラムの作成（苗木植栽～成長過程の観察等）
実施に向けての課題	・ 法面緑化に適した自生種の選定、苗木の準備方法、植樹後の管理方法等に関する検討が必要である。 ・ 大学等の研究期間との連携方法、研究費用等に関する検討が必要である。

【NO.9】

自然や歴史・文化の活用【地域の恵みを享受する殿ダムの活用】	
主な施策	◆歴史・文化の活用
施策メニュー	9）殿ダム湖周辺の歴史・文化の活用 ●地元のガイドクラブなど、観光ボランティア組織と連携した殿ダム湖周辺の歴史・文化の勉強会の実施等により、地域ガイドの育成が図れます。
具体的な内容	・ 殿ダム湖周辺や袋川流域における万葉の歴史・文化について、観光ガイドの専門家等のアドバイスのもとで、ふるさとの良さを知る場としての勉強会を実施 ・ 観光ボランティア組織との連携による、地域ガイドを育成できるような体制づくりに向けた取り組みの推進
実施に向けての課題	・ 地元の方によるガイドの派遣について、人材の管理や派遣等を行っていくための観光ボランティア組織とも連携した体制づくりが必要である。

【NO.10】

自然や歴史・文化の活用【地域の恵みを享受する殿ダムの活用】	
主な施策	◆歴史・文化の活用
施策メニュー	10）殿ダム湖周辺地域の観光資源の活用 ●殿ダム湖周辺地域の名所の案内として、ウォーキングトレイル計画と連携したマップの作成、ダム湖周辺での観光名所の案内板の設置等の推進により活用が図れます。
具体的な内容	・ 地元ガイドクラブとの連携し、周辺の歴史・文化に関する情報（観光資源の位置・写真・解説等）を掲載したガイドマップ（小冊子）の作成 ・ 主要アクセス道路からの距離や時間等、利用者が周回に必要な時間を把握できるような利用面に配慮した情報の掲載 ・ 観光資源や地元の歴史・文化を紹介する説明看板等を充実し、記念撮影や学習の場等としての活用を促進
実施に向けての課題	・ ウォーキングによるアクセスを想定し、徒歩で周遊できる地域の名所の選定などを行い、近傍のポイントから段階的に拡張していく等、利用者に配慮した無理のないコース設定について検討が必要である。 ・ 各地域の名所について、見学等に配慮した環境を維持していくため、地元と連携した維持管理の体制づくりについて検討が必要である。 ・ スタンプラリー等、利用を促進する方策についての検討が必要である。

【NO.13】

地域活動の促進【様々な地域活動から殿ダムの利活用促進】	
主な施策	◆多目的広場の活用
施策メニュー	13）都市と農村の交流を図る多目的広場の活用 ●都市と農村との交流の場として、多目的広場の利活用を図ることで、地域活動の促進を図れます。
具体的な内容	・豊かな自然や魅力ある歴史・文化などの地域資源の活用や農業体験など、イベント・物販・体験を通じて、水源地域の住民が鳥取市街地の住民または県外の都市住民と行う交流に対する支援、地域間交流の拡大の場としての活用（例えば、滞在型の余暇活動としてのグリーンツーリズムの場） ・地元に大切にされる多目的な自然広場の魅力の検討により、子どもがノビノビと遊べ、四季の花木を楽しめ、来訪者がゆったりと過ごせる滞留空間としての活用
実施に向けての課題	・交流人口等の増加を図るため、ホームページやブログ等の媒体による水源地域から都市等へ向けた情報発信の強化を図る必要がある（鳥取市中山間地域対策強化方針との連携）。

【NO.14】

地域活動の促進【様々な地域活動から殿ダムの利活用促進】	
主な施策	◆交流施設の活用
施策メニュー	14）交流館を活用した地域の活性化 ●貴重な茅葺き屋根のある交流館を活用し、都市住民の山村暮らし体験等を行うことで、地域の活性化が図れます。
具体的な内容	・「神護かやぶき交流館」の復元による山村暮らし体験の交流場としての活用 ・集落とまちづくり協議会との連携により、まちづくり協議会を核とした地域の魅力と活力を高める「鳥取市方式」による活動支援 ・中山間地域の暮らしの達人として活躍が期待される地域リーダーによる山村暮らし体験の研修会の実施 ・農村地域の活性化や経営の多角化を図るための第６次産業化の育成支援（例えば、市街地消費者への対面直接販売、地産地消レストラン経営等） ※「第６次産業」とは、農畜産物の生産だけでなく、農業のブランド化、消費者への直接販売、レストラン経営など、食品加工、流通、販売にも農業者が主体的かつ総合的に関わることをいう。 ・「扇の里村づくり運営委員会」による“わじっこクラブ”でのグリーンツーリズムの場としての取り組みと連携（大根の種まきとモリアオガエルと遊ぼう、大根の収穫とヤマメつかみ、水鉄砲作り、化石のレプリカ作り、鉱山の鉱石さがし）
実施に向けての課題	・中山間地域の定住人口の増加を図るため、UJIターン住宅支援やUJIターン者受け入れまちづくり委員会等の支援の拡充を図るとともに、お試し体験や二地域居住体験施設の利用促進が必要である（鳥取市中山間地域対策強化方針との連携）。

【NO.15】

地域活動の促進【様々な地域活動から殿ダムの利活用促進】	
主な施策	◆特産品の販売
施　　策 メニュー	15）イベント等での販売活動の場としての活用 ●来訪者が集まるイベント等で地元特産品の販売活動を行い、都市住民と地元住民、上下流域の住民間の交流等の推進が図れます。
具体的 な内容	・　食のみやこ鳥取県フェスタ即売会、万葉歴史館での「因幡の傘踊り」や「万葉集朗唱の会」等での出展や実演販売等、集客型イベント開催時の地元特産品の販売 （上地の扇の里グループ：山菜おこわ、三色餅、揚げかき餅、ケチャップ） （雨滝のとうふ工房雨滝：豆腐のデザート、豆腐、豆腐ちくわ） （町屋の上野山ダッシュ村：生・乾しいたけ、さつまいも、うこっけい卵） ・　上地の「扇の里交流館」、「食のみやこ鳥取県フェスタ即売会」等での出展や実演販売等、集客形イベントの開催
実施に 向けて の課題	・　「ＪＡ鳥取いなば」等との連携販売の促進が重要である。 ・　中国自動車道姫路鳥取線の開通による今後の観光入り込み客数の増加が期待されるため、現在の路線バスだけでなく、新たな移動手段の確保が必要である。

【NO.16】

地域活動の促進【様々な地域活動から殿ダムの利活用促進】	
主な施策	◆特産品の開発
施　　策 メニュー	16）ダム周辺の地元に因んだ特産品の開発 ●ダム湖周辺の自然環境や歴史・文化に因んだ新しい特産品の開発を行うことで地域の活性化が図れます。
具体的 な内容	・　殿ダムスタンプラリー（仮称）によるオリジナルグッズや記念品の開発 （事例：温井ダムでのスタンプラリー、黒部ダムでのオリジナルグッズ等） ・　鳥取市国府町を代表する観光イベント「マスつりフェスタ」、山陰海岸ジオパーク扇ノ山エリア等に因んだ特産品の開発 ・　農畜産物、農産物加工品、伝統工芸などのブランド化と農商工連携等の推進 ※農商工連携とは、農林漁業者と商工業者等が通常の商取引関係を超えて協力し、お互いの強みを活かして売れる新商品・新サービスの開発、生産等を行い、需要の開拓を行うこと。これまで農林漁業者だけ、商工業等を営む中小企業者だけでは開発・生産することが難しかった商品・サービスを両者が協力し合うことで創り出し、市場で販売していくことで、売上げや利益の増加を目指そうとする取り組みのこと。
実施に 向けて の課題	・　ダム建設を契機にしたオジリナルグッズや食品などの事例がある。殿ダムにおいても「国府町特産品推進協議会」、「ＪＡ鳥取いなば」等との連携により、ダムに因んだ新しい特産品の開発が必要である。 ・　鳥取市観光協会に配置されている「観光アクションプランナー」による地域の観光商品の企画・開発やネットワークづくりに関する専門的見地からのアドバイスと実践により、水源地域の観光資源を磨き上げ、ネットワーク化するなどの観光振興の充実が必要である。 ・　「水の里応援プロジェクト（国土交通省）」での取り組みを活用し、全国のバイヤーなどを対象にした物産展の実施などのプロモーション活動を展開し、地域活性化を支援していく方策もある。

【NO.18】

地域情報の発信【殿ダムや水源地域の魅力を多くの市民へ周知】	
主な施策	◆多様な情報発信
施策メニュー	18）広報目的に応じた情報発信の実施 ●情報発信の目的ごとに対応した情報を組み合わせて発信していくことで、より効果的に市民への周知が図れます。< a)イベント、b)ダム関わる歴史、c)自然、d)地域社会、e)従来からの既存資源、f)新しく創出する場所、g)ライブ情報、h)ダムと川の安全、i)アクセス情報等>
具体的な内容	・ 安全･安心（殿ダムによる洪水調節の効果、鳥取市街地の治水安全度の向上）:【g)ライブ情報、h)ダムと川の安全】 ・ 鳥取市国府町の活性化：【a)イベント】 ・ 水源地域への集客、観光：【a)イベント、e)従来からの既往資源】 ・ 殿ダムをより知ってもらうための情報発信：【b)ダムに関わる歴史、d)地域社会、g）ライブ情報】 ・ ダム湖の眺望景観の周知：【c)自然、f)新しく創出する場所、g)ライブ情報】
実施に向けての課題	・ 色々な情報が対象となるため、目的を明確にさせた情報発信が必要である。情報発信の目的・内容・対象者等を考慮し、誰が、どのような時期に、どのような情報を提供することができるのか、検討の必要がある。

【NO.19】

地域情報の発信【殿ダムや水源地域の魅力を多くの市民へ周知】	
主な施策	◆多様な情報発信
施策メニュー	19）適切な広報媒体の選択 ●情報に適った媒体として、イベント等についてはＨＰや鳥取市報等の広報誌、ダムに関わる歴史等については、鳥取県の社会教育等の利用の検討により、市民への周知が図れます。
具体的な内容	・ 殿ダムや水源地域の魅力を多くの市民に周知することを目的とし、「地域の恵みを享受する殿ダムの活用」、「様々な地域活動から殿ダムの利活用の促進」に関わる情報を的確に、かつ、迅速に発信できる広報媒体の検討 ・ インターネットに不慣れな方でも、テレビのリモコン操作で簡単に閲覧できるコミュニティデータ放送システムを導入し、ケーブルテレビ局のコミュニティチャンネル等を利用した地域情報提供についての検討 ・ 地域の情報インフラ整備状況や高齢の方を考慮し、電子媒体、紙媒体の適切な選択による情報提供の検討
実施に向けての課題	・ 「水の里応援プロジェクト（国土交通省）」での取り組みを活用し、殿ダム水源地域ならではの観光資源を活かした旅行企画、プロモーション活動を実施することなどにより、地域活性化を支援していく方策もある。 ・ 地域向けの交流・情報提供サービスとして、“地域 SNS”を導入した事例（倉吉市等）がある。地域に住む・働く・関心のある人々のためのコミュニケーションや情報共有が図られており、こうしたコミュニティサイトの充実も有効な方策の一つである。 ※地域ＳＮＳ（Local Social Networking Service）とは、パソコンや携帯電話を利用して、日常的にインターネット上のサイト内の日記や電子掲示板の利用、行政情報や地域情報などを入手したりすることができる地域向けの交流・情報提供サービスであり、現在各地で試行されている。

【NO.20】

地域情報の発信【殿ダムや水源地域の魅力を多くの市民へ周知】	
主な施策	◆多様な情報発信
施策メニュー	20）山陰海岸ジオパークとの連携による広域観光の展開 ●ダム上流域の山陰海岸ジオパーク扇ノ山エリアと連携していくことで、広域観光の積極的な展開を図ることができます。
具体的な内容	・ 山陰海岸ジオパークに残されている地質遺産を地域住民と行政、民間団体、企業等が協働して保全するとともに、教育、観光、地域産業の活用による持続可能な地域社会の形成 ・ 山陰海岸ジオパークとの連携による広域観光の拠点づくり（水源地域の流域は、山陰海岸ジオパークの扇ノ山エリアに位置し、扇ノ山と上山高原のジオサイトがある。袋川上流の大滝谷の標高 500m に位置する雨滝は、下位には角礫岩層、上部は扇ノ山カンラン位置玄武岩が覆っている。）
実施に向けての課題	・ 山陰海岸ジオパーク推進協議会との連携により、殿ダム水源地域の地質遺産についても広域観光の拠点と位置づけることが重要である。 ・ 地質遺産を活用して地域の持続的発展を目指すこと、地質遺産を保護・保存すること等が求められる。

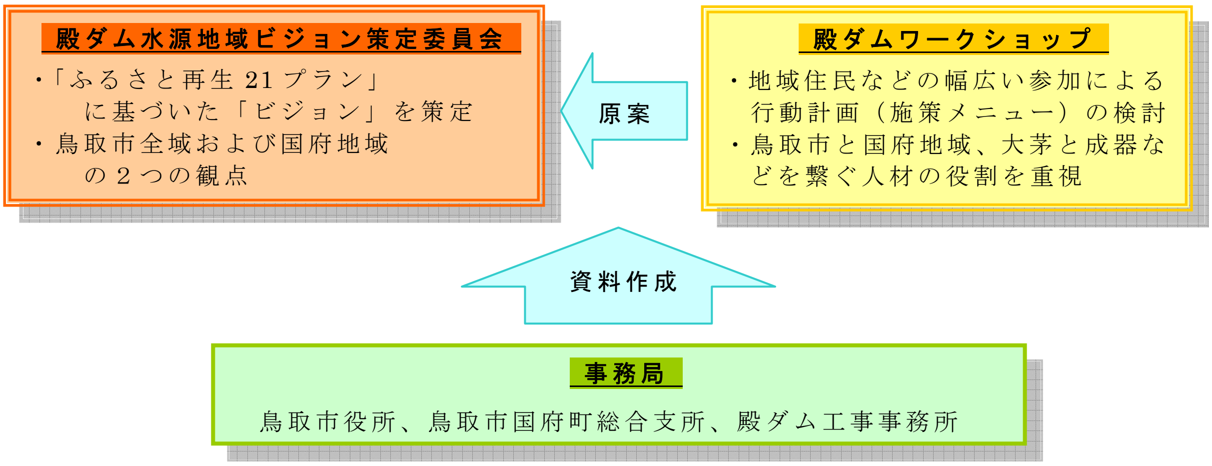
【NO.21】

地域情報の発信【殿ダムや水源地域の魅力を多くの市民へ周知】	
主な施策	◆情報発信の拠点づくり
施策メニュー	21）既存組織等と連携した情報発信拠点の確保 ●既存の組織と連携した情報発信の拠点づくりを行うことで、殿ダムや水源地域の魅力等、多くの市民への周知が図れます。
具体的な内容	・ 既存の地域活動組織との連携 （例えば、成器地区まちづくり委員会、上地の扇の里グループ、雨滝のとうふ工房雨滝、町屋の上野山ダッシュ村など） ・ 既存施設の拠点機能づくり （例えば、鳥取市国府町町屋の「万葉歴史館」、上地の「扇の里交流館」、中河原の「アトリエ小学校」など）
実施に向けての課題	・ 鳥取市内のループバスには、観光客を対象にしたループ麒麟獅子バスとコミュニティ型循環路線バス「くる梨」があり、後者では平成 15 年に樗谿公園のホタル鑑賞者の利便性向上を目的に、同公園前を通る赤コースの運行時間の夜間延長「ホタルバス」を実施し、翌年度以降も継続している。こうした制度を活用し、殿ダムの情報発信の拠点への市内からのアクセスが可能とするため、鳥取市の関連部局との調整が必要である。 ・ 鳥取大学や鳥取環境大学、地元企業等との連携による産官学の持続可能な情報発信の仕組みづくりが必要である。

参考資料

1.　殿ダム水源地域ビジョン策定委員会

殿ダム水源地域ビジョンの策定においては、水源地域に関わる関係行政機関や各種の関係団体、地域有識者等による「殿ダム水源地域ビジョン策定委員会」、および地域住民から様々な意見を聴取するための「殿ダムワークショップ」を設置して検討・策定作業を行いました。



【ビジョン策定委員会開催状況】

【ワークショップ開催状況】

●ビジョン策定委員会委員（敬称略）

種　別	所 属 等	氏　　名
委員長	旧国府町　代表	木村　肇
副委員長	鳥取大学農学部	古川　郁夫
委　員	殿ダム事業促進協議会	村尾　馨
委　員	殿ダム事業促進協議会	池原　範雄
委　員	殿ダム事業促進協議会	清水　昭允
委　員	殿ダム事業促進協議会	高垣　武志
委　員	殿ダム事業促進協議会	河越　良二
委　員	殿ダム周辺整備検討委員会	山﨑　祥次
委　員	国府地域審議会	峯尾　保
委　員	鳥取市	深澤　義彦
委　員	鳥取県東部総合事務所	瀧山　親則
委　員	国土交通省殿ダム工事事務所	山田　啓一

●ワークショップ参加団体：合計 18 団体（順不同）

まちづくり協議会	ふるさと再生 21 プラン検討委員
国府町婦人会	国府町老人クラブ
鳥取市自治連合会	鳥取青年会議所
鳥取市商工会議所	鳥取市東商工会
鳥取法人会	鳥取市観光協会
いなば国府ガイドクラブ	保護者会代表
特産品協議会	ふれあいの里吉野
雨滝豆生庵	とっとり環境ネットワーク
学生人材バンク	NPO 法人広葉樹文化協会
地域有識者	学識経験者

2. ビジョンの検討経緯

殿ダム水源地域ビジョンの策定においては、3 回の策定委員会と 4 回のワークショップを通じて、地域住民の想いや意向の把握を行い、ビジョンの目標や基本方針、行動計画等の検討を行い、ビジョンのとりまとめを行いました。

年　度	策定のプロセス
平成 21 年度	第 1 回策定委員会（H21.10.16） ・ 委員会の設置、地域の現状と課題の確認、委員会の進め方 〈地域住民の想い・意向の確認〉 第 1 回ワークショップ（H21.12.22） ・ ワークショップ発足、ワークショップの進め方 ・ ダム湖周辺の現状などの確認 第 2 回ワークショップ（H22.1.26） ・ ビジョンの目標（案）、基本方針（案）、行動計画の柱（案）の紹介 ・ グループ毎に利活用について意見交換 第 3 回ワークショップ（H22.2.25-26） ・ 現地視察、様々な事例紹介 ・ グループ毎にテーマを絞り意見交換
平成 22 年度	〈具体策・体制の検討策定〉 第 2 回策定委員会（H22.10.21） ・ ビジョンの目標、基本方針、行動計画の検討 ・ 先行して実施するアクションプラン（案）の検討 〈地域に即した具体策・体制の立案〉 【アクションプランの実施】 ・ 殿ダム建設事業パネル展（10/22～11/7） ・ 殿ダムウォーキング大会（10/31） ・ アクションプラン実施時の意見収集 第 4 回ワークショップ（H23.2.15） ・ 第 2 回策定委員会における討議結果の報告 ・ アクションプランの実施に関する報告 ・ 地域資源(風土資産)に関するアンケート調査結果(H21)の報告 ・ 行動計画の推進や展開に向けたアイデア 第 3 回策定委員会（H23.3.25） ・ 殿ダム水源地域ビジョンの策定

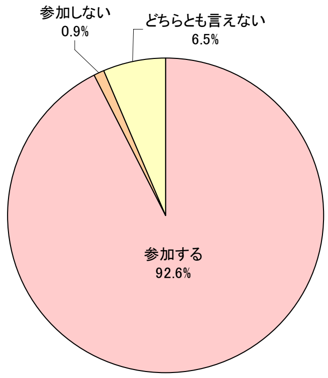
3. アクションプランの実施結果

アクションプランとして選定した施策のうち、"ウォーキングトレイルの活用" ならびに "殿ダムに関する情報発信" に関して、以下のイベント等を開催しました。

【ウォーキングトレイルの活用に関する試行】

1)名称:2010 殿ダムウォーキング大会
2)日時:平成 22 年 10 月 31 日(日)9:40～13:30
3)場所:殿ダム建設現場周辺
4)参加者:受付者数 581 名(申込み者数 713 名)
5)内容:Aコース 約 9.0km、Bコース約 7.0km
(前日雨天のため、Bコースのみで開催)
特産品即売コーナー等
6)アンケート回収数:247 件

(今後のイベントへの参加希望)



(ウォーキングコース)

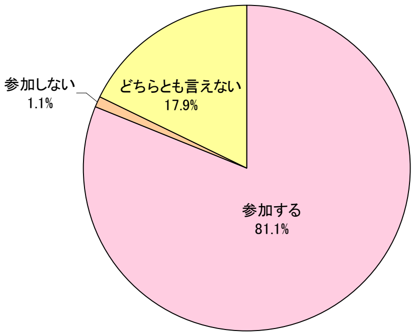
(ダムサイト)

(ふるさと広場)

【殿ダムに関する情報発信に関する試行】

1)名称:平成のピラミッド殿ダム建設事業を紹介するパネル展
2)日時:平成 22 年 10 月 22 日(金)～11 月 7 日(日)
3)場所:因幡万葉歴史館(特設展示場)※入場無料
4)参加者:来場者数 2,598 名(14 日間)
5)内容:完成直前の殿ダムの状況、水没地域の昔の写真、
ダムの建設工法の紹介、将来の利活用の紹介、
ビデオ(袋川今昔物語)等
6)アンケート回収数:100 件

(今後のイベントへの参加希望)



(展示会場の状況)

(展示状況)

(見学状況)

殿ダム水源地域ビジョン

殿ダム水源地域ビジョン策定委員会

【殿ダム水源地域ビジョン策定委員会　事務局】
鳥取市　都市整備部・国府町総合支所
〒680-8571　鳥取県鳥取市尚徳町 116 番地
TEL：0857-22-8111
国土交通省　中国地方整備局　殿ダム工事事務所
〒680-0151　鳥取県鳥取市国府町宮下 1221 番地
TEL：0857-29-9570